

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

<b>自治体提示の地域課題名(注1)</b>	No.	<b>自治体提示の地域課題名</b> 共創による「ひとが輝き 交流ひろがる わたしたちの宇部」実現	<b>自治体名</b> 山口県宇部市
<b>チームがつけたアイデア名(公開)(注2)</b>	自己成長を求める学生と地域活動参画を結ぶプラットフォーム”ガクチア”持続性のある地域活動と学生成長率ナンバーワンの宇部市を実現		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

### 1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

<b>チーム名(公開)</b>	株式会社 UBE COL		
<b>チーム属性(公開)</b>	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 <span style="color: red;">ドロップダウン選択→</span>	2. 学生	
<b>チームメンバー数(公開)</b>	4 名		
<b>代表者(公開)</b>	村田照真		
<b>メンバー(公開)</b>	平井貴大、小林裕貴		

**【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。**

#### ＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

#### ＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名(メンバー一覧ページを参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について:  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

#### ＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 →

OK

#### ＜チームメンバー名簿:メンバー一覧ページ＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

#### (1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動(サービス)を行うのかを具体的に示してください。

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

将来実現した場合に、**新規性があり、実践したくなり、魅力的でワクワクするようなアイデア**を求めます。その結果、**課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待**されます。**2 ページ以内**でご記入ください。

※応募チームとして**解決したい課題のポイント**を、以下にごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

宇部市実施のアンケート調査によると、市民と行政が共創を行うためには「まちづくりの中心となる担い手、人材を育成すること」が**最も重要**とあるのに対し、宇部市施策の「**仕事と家庭の両立支援、若者や女性が活躍できる環境づくり、大学や高専と連携したまちづくり**」は満足度が**平均よりも低い**のが現状です。私たちは応募チームとして、**若者・市民が相互に連携を深め、持続的に活動できる共創環境の構築**を目指します。

※以上の課題解決のために『**何**』をするアイデアか、それを『**だれ**』が『**だれ**』に対して『**いつ**』『**どこで**』『**どのように**』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみる）が大切です。

＜提案するアイデアの内容＞

“ガクチア”は、**地域活動を行いたい学生と学生に参画してほしい地域をつなぐプラットフォームサービス**です。

学生と地域の繋がり創出を通じ、地域活動の中で学生が成長することで、まちづくりの中心となる担い手育成や若者が活躍できる環境づくりに寄与し、**日本一学生が輝くまち・宇部市**を実現します。

『何を』

**地域活動を行いたい学生が地域の様々な主体とともに活動を行うことで、まちづくりの中心となる担い手や人材の育成を図るサービス**です。

地域活動を通じた経験や学びの見える化と蓄積を行うことで、学生自身が自己の成長を確認することができ、また地域も様々な個性に富んだ学生をサービスで視認することができます。

『だれが』

宇部市や山口県内の他自治体、高等教育機関との連携が強みの弊社が本アイデアの実施を行います。

令和4年11月～令和5年3月	宇部市からの業務委託やイベントの共催を行う
令和5年4月	宇部市と包括的連携協定を締結
令和6年3月	COG2023にて学生団体 Ube col.が本アイデアの元となるアイデアで LINE ヤフー！賞とファイナリスト視聴者オンライン投票銅賞を受賞
令和6年7月	宇部市実証実験事業応援制度に採択

『だれに』

＜学生＞

**地域活動を行いたい全ての学生**です。まず、令和3年度に宇部市が実施・発表した学生アンケート調査結果の結果によると、宇部市のまちづくりのうち協力したい分野として「**地域の行事・イベントのスタッフ**」と回答した学生は、「**特**ない」と回答した学生を**8ポイント上回る27%**にもものぼります。令和6年4月時点で、宇部市内の高等教育機関に通う学生は**5,155人**（内訳は、山口大学医学部が1,195人、工学部が2,351人、宇部高専が1,046人、宇部フロンティア大学が396人、宇部フロンティア大学短期大学部が167人）なので、初期段階はその**27%のおよそ1,400人の学生**に対して行います。

データから見ると、1,000人を超える多くの学生が宇部市内のまちづくりという地域活動に協力したいと考えている一方、私たちが活動を行っている中で実際に活動をすることができている学生はごく僅か（実感として50人ほど）です。前述した統計上の数字と実感との間は大きく乖離しており、意欲があるのにも関わらず実際に活動をすることができていない現状は、「**若者や女性が活躍できる環境づくり、大学や高専と連携したまちづくり**」の基盤が整っていないことを裏付けています。

＜地域＞

**学生に参画してほしいと考える自治体や企業、非営利法人を含む全ての地域活動主体**です。宇部市が発表した令和2年度第五次宇部市総合計画アンケート調査報告書によると、宇部市がこれまで実施した施策のうち「**仕事と家庭の両立支援、若者や女性が活躍できる環境づくり、大学や高専と連携したまちづくり**」の**重要度が高い**にもかか

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

わらず満足度は低いという結果になっており、また市民と行政が協働してまちづくりを行う上で「まちづくりの中心となる担い手、人材を育成すること」と回答した人が **44.5%と最も高くな**っていて、ほとんどの年代層の人が重要だと考えています。

したがって、学生は共創の場に参加する方法に課題を感じている一方、地域はどうやって学生や若者を共創に巻き込めるか、いかに成長に貢献できるかに重きを置きつつも課題を感じていると考えられます。

私たちが活動している中での実感としても、自治体や民間企業を問わず、「学生と一緒にプロジェクトをしたい」「しかしその学生との接点がない」という意見を多く聞きます。

学生と地域の双方に共創へのモチベーションがあるにも関わらず、共創の取り組みが最大限行われていないのは、その取り組みの輪が属人的で広がりにくいアナログなものであるからだと考えます。この共創の輪を広げ、**まちづくりの中心を担う人材に学生や若者を育てていくデジタルプラットフォーム**が必要です。

#### 『いつ』

学生が地域活動を行いたいと思立った瞬間に情報を手に入れることができるサービスを目指します。地方都市は首都圏と比べ、必要な情報を必要なときに手に入れられる手段が非常に少ないです。手段としての情報媒体の数が少なく、内容など質的な部分においても十分とは言えません。宇部市においても、地域活動の情報は主に学生組織に帰属する（詳細は(2)アイデアの理由に記載）ので、そこに属していない学生は情報を得ることができません。学生が個人で利用できるものが求められています。

#### 『どこで』

インターネット空間でのプラットフォームサービスです。宇部市が発表した令和2年度第五次宇部市総合計画アンケート調査報告書の中で、市政に関する情報について普段入手している手段として、若者世代は他の世代に比べて「インターネット・SNS」を利用している人が **15ポイント以上も多い結果**となっている一方、「広報うべ」や「新聞」と回答した若者世代は他の世代よりも少ないです。これらのことから、地方都市において、**アナログ的な発信の多い地域活動をデジタル化すること**で、学生に届きやすく受け入れられやすいサービスを目指します。

#### 『どのように』

アプリをダウンロードし、簡単なメールアドレスだけの会員登録を行ってサービスを利用することができます。地域活動の主体がその情報を掲載し、学生がその活動の中から応募、活動を行います。活動を行った学生は、「評価」システムによって自分の行った活動に対して募集者からフィードバックや評価を受けることができ、活動・評価を蓄積していくことにより、自身の成長やその過程を可視化することができます。

さらに、地域の募集者はその蓄積された活動・評価を見て、個別に地域活動の依頼をすることもできます。

### (2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ **2ページ以内**で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由(なぜ)を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

<参考:以下のように理由を書いていきます>

※根拠: このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け: その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。(定性データを含めて歓迎)

### 【なぜ】

#### ▽宇部市において活躍できる学生とできない学生の違い

私たちは最初、学生団体として活動をスタートしました。宇部市や山口市の大学や高等専門学校に所属する学生が広く交流することで、連携を深め、知見を広げることを目指して設立しました。宇部市内の都市公園で行ったボランティア活動がメディアに取り上げられ、それをきっかけに宇部市と連携、都市公園を活用したイベントの企画・運営や商店街のお祭り運営などの委託を受託した資金で、団体設立の半年後に法人化、学生ベンチャーとしては異例の宇部市との包括的連携協定の締結を行いました。



左: 都市公園でのボランティア

右: 宇部市と包括的連携協定を締結

その後も宇部市内で自治体や民間企業と協働した多くのイベントや行事を行ってきました。これらのことから、宇部市は学生に対しての大きな期待と支援を行っており、学生目線だと成長や自己実現に向けた取り組みを行いやすい地域という実感がありました。しかし、実際にそれらに向けた取り組みを行うことができている学生や組織は多くない、というのもまた実感を感じています。数字上では1,000人以上の学生が活動を行いたいと思っているはずなのに、実際には取り組みを行うことができている学生が多いという現状に違和感を持ち、私たちはこの課題を深掘りしていきました。

#### ▽多くの学生や地域活動と関わる中で見えてきた「地方が抱える課題」



左: 都市公園でのイベント設営

中心: 学生と社会人の交流会イベント

右: 商店街イベントの準備

私たちが活動として取り組んできた、宇部市から受託したイベント等の地域活動では、イベント設営の準備や当日のスタッフなど、当時私たちの組織に所属していない学生に対して参加を呼びかけると、多くの学生が意欲的に参加してくれました。「普段の学生生活では得られない体験ができた」「学生以外と話す機会がなかったので勉強になった」

## 2. アイデアの説明（公開）

### (2) アイデアの理由（公開）

「今後もこのような活動に参加した」との声を参加した学生からいただきました。しかし、その延長線で弊団体への参画を呼びかけると、「敷居が高い」「団体に参加するのはちょっと…」という否定的な回答が多く見られました。

団体への参画に否定的な意見だった学生に個別に聞いたところ、**組織に属することの煩わしさを大きな理由として**考えていました。例えば、学生団体で定期的開催されているミーティングに出られないとそれ以降の参加にハードルを感じるのではないか、継続的な地域活動の実施についていけるか、自分がこの団体に入っても良いのかという不安がありました。学生にとっては、**成長や学びの機会には積極的に参加したいけれど、色々な煩わしさや不安から参加する組織には属したくないというのが本音**のようです。

一方、地域の側から見ると、**学生との距離感がわからない**という問題があります。世代間の考え方の違いは「Z世代」という言葉に揶揄されているように、学生に直に関わっていないと上手なコミュニケーションを図ることが難しい上に、学校は比較的閉鎖された空間であるため、学生とどうやったら関わることができるのか、どのように関わっていけば良いかの距離感が見えてきません。その結果、学生に呼びかける際は、**地域の側から見やすい「学生組織」にコンタクトを取る**ほかになく、そこに属していない学生個人は地域活動から排斥されてしまい、**成長や学びの大きな機会損失を生んでしまっています**。

#### ▽学生の実情に沿った「活躍の場」の提供

ここまでをまとめると、宇部市の課題は、**地域の各主体の思いに対してその手段を提供できていない**ことにあります。学生は、必ずしも組織に属さずに地域活動を行い、成長・自己実現して活躍できる手段を、地域は適切に学生を巻き込むことができる手段を求めています。この解の1つとして、**その双方が出会うことができ個人で利用することができるプラットフォーム**であると考え、私たちはこのサービスを実現したいと思っています。

#### 【有効性】

#### ▽宇部市の登録学生は最大約 1,400 人

「(1)アイデアの内容」で紹介したデータに基づくと、宇部市のまちづくりについて、地域の行事やイベントスタッフとして協力したい大学生は、**最大約 1,400 人**だと見込まれます。

#### ▽成長が期待できるマーケットで需要が見込める

**地域コミュニティアプリは全国で展開されています**。地域交流型アプリ「ピアッツァ」は全国 60 以上の自治体と協定を締結しています。コミュニティアプリ「GOKINJO」はマンションに焦点を絞ったサービスです。これからもデジタルコミュニティが今後も広がっていくことが予想されます。高等教育機関が複数存在し、**大学生のマンパワーが期待できる宇部市**だからこそ、学生など若者世代に特化したコミュニティサービスは**地域活性化につながる**可能性があります。

#### ▽時代が変化する中、学生の課題解決力向上と活動の持続性に

人口減少や技術革新などを背景に、時代は大きく変容しています。去年、経団連がまとめた「新しい時代に対応した大学教育改革の推進」という提言書によると、Society5.0 において企業が求める能力や資質に「課題発見・解決力」や「未来社会の構想・設計」が挙げられています。しかし日本の大学教員が教育と研究の両立に困難を感じているなどの現状を踏まえれば、課題解決能力発掘は学生が自ら取り組むべき領域だと考えられます。しかし、現状その能力を向上させる機会は特定の教員や学生に偏っています。持続的な成長・学びの場を提供する上で、非属人的なデジタルプラットフォームの作成と、学生の成長・学びにコミットしたシステムを導入したいと考えています。

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

#### 【実現する主体】

実現する主体は、**高等教育機関に在籍する学生**です。これは、近い将来、学生が就職活動等に向けて社会人基礎力や課題解決能力などを向上させたいというモチベーションをもつ人の割合が高いと見込まれることが背景にあります。

初期段階では、私たちと関わりのある学生や、すでに地域で活動を実践している団体・組織を中心的役割の主体として巻き込み、取り組んでいきます。弊社法人の母体となった学生団体 Ube col.(ウベカレ)は、自治体が主催する行事の一部受託や、地元企業とのイベント参加などを通じて、資金調達や課題解決能力向上を達成しました。学生団体の活動に参加していた学生が実際に就職活動を行った際、「多くの学生が不安に感じて課題意識のある「ガクチカ(学生時代に力を入れたこと)の略で、多くのシチュエーションで必要とされる)」をむしろ強みとし、活動の中で築いてきた能力をもとに自信を持って就職活動を終えることができた」と述懐した例もあります。

宇部市では**提案アイデアがアナログで実現しつつある**と理解しています。他の多くの若者に対して活躍の場を広げるため、私たちが自治体などと取り組んでいる事例をデジタル化することで、活躍機会の増加とアイデア実現をリードします。

#### 【実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）】

実現に向けて必要な資源は、①**ガクチカに登録し、地域活動に取り組む学生(ヒト)**と、②**自治体や地元企業が、ガクチカに掲載する、地域行事やそれに向けた企画・運営内容の情報(モノ)**、③**プラットフォームの運営費と販路拡大費(カネ)**です。

①について、初期段階で目指す登録学生数は、**宇部市内の高等教育機関に通う学生 2,600 人**です。

週に 3 日間の活動があり、その学生募集数が 5 人であると仮定すると、

【 $5(\text{人}) \times 3(\text{回}) \times 4(\text{週}) \times 12(\text{ヶ月}) = 720(\text{人})$ 】です。この 720 人は、実際に登録した学生の中で地域活動に参加したい・実際に参加した学生は、登録した学生の 27%であることを考えると、必要な登録学生は

【 $720(\text{人}) \times 100/27 = 2,666(\text{人})$ 】であり、令和 6 年、宇部市内の高等教育機関に通う学生が約 5,200 人であることから、およそ半数の学生に登録してもらう必要があります。

調達方法は、学校単位での登録の呼びかけとともに、現在活動している学生団体のメンバーへの声かけです。

②について、1 年間に必要な企画・運営内容の情報は 144 回分です。

①の中で 1 週間のうちに 3 回活動が行われると仮定しているため、

【 $3(\text{回}) \times 4(\text{週}) \times 12(\text{ヶ月}) = 144(\text{回})$ 】となります。

調達方法は、宇部市で事業などに取り組む組織・団体への声かけです。宇部市との連携や事業採択実績から、事業広報や周知について協力体制を築きつつ、推し進めていこうと考えています。

③について、初期段階では大きくカネがかかるものではないと理解しています。まず、プラットフォームについては**自社開発**を行っており、開発費用はかかっていません。システムの運営費についても、自社内で行っており、1 ヶ月のシステム運営費の試算はおよそ 200 円となっています（登録者や掲載数が万を超えるような規模になれば、さらに多くの費用がかかる予定）。また、販路拡大費として、自治体や大学、既に事業を行なっている組織・団体に対するお声かけについては、私たちの人件費を除いてかからないものと考えています。これを踏まえて、**調達方法として、既存サービスを組み合わせる**ことや、すでにサービスを運用・展開している企業からの賛同をいただくことも視野に入れ、**現在、自治体や大学、複数の民間企業との協議を進めています。**

## 2. アイデアの説明（公開）

## (3) アイデア実現までの流れ（公開）



### 【実現にいたる時間軸を含むプロセス】

#### これまでの時間軸

これまで私たちは、宇部市において活躍できる学生とできない学生の違いを出発点に、地方が抱える課題の原因を探ってきました。私たち自身が「地域にとけ込む学生団体」として活動し、地域と繋がりがあがる共同体の手触りができてきました。こうした共同体をさらに多くの学生に対して「デジタルプラットフォーム」という形で巻き込み、宇部市で学生が地域活動を行なっていく中で学び、成長していくことこそ、**日本一学生が輝くまち宇部市の実現**に必要な不可欠なことであると考えています。

経過：

#### 2022年

11月	学生団体 Ube col. 設立。宇部市にある都市公園・ときわ公園でのボランティア活動から始める。
12月	イルミネーションイベント・TOKIWA ファンタジア初出展。地元企業から協賛獲得。優秀アイデア賞。

#### 2023年

3月	宇部市主催イベント「WAKUWAKU マーケット」事業を一部受託。小学生向け WS を実施。
4月	株式会社 UBE COL 設立。
5月	宇部市と包括的連携協定締結。
8月	宇部市から受託業務としてときわ公園で 2 イベントを実施。2 日で 300 人動員などの実績。
10月	市主催「宇部スペインフィエスタ」に運営スタッフとして参加。 外資系企業から「学生と社会人の交流」をテーマにしたイベント受託。初回。
11月	宇部市若手職員との意見交換会を開催。 地元企業と協働し山口大学・学祭に出店。目標以上の売上を達成。

#### 2024年

3月	学生団体として COG2023 出場。LINE ヤフー！賞と視聴者ファイナリストオンライン投票銅賞を受賞。
7月	宇部市実証実験事業応援制度に採択。
8月	山口県主催「やまぐちアクセラレーションプログラム」に採択。
9月	「ガクチア」のサービスを開発。
10月	実証実験期間の開始。1ヶ月で登録学生 50 人以上、掲載案件 10 件以上を達成。
11月	山口県中小企業連合会中央会「チームジャッジ」にてパートナー賞を受賞。

#### これからの時間軸

私たち株式会社 UBE COL は、アイデアに賛同してくださる学生と、自治体が共創しながら、下記スケジュールに従って、アイデアの実現と拡大を目指します。令和 7 年 3 月に実証実験期間が終了するため、そこまで地域活動の継続的な掲載と学生の応募のサイクル実現を目指します。

令和 7 年の 4 月からは、隣の自治体であり多くの高等教育機関を有する山口市に展開し、令和 8 年度からは主要

## 2. アイデアの説明（公開）

## (3) アイデア実現までの流れ（公開）

大学を有する周南、下関地域に展開して、アイデアの事業拡大を図ります。  
この「ガクチア」事業が軌道に乗った際には、近隣他県の同じ課題を抱える自治体への展開も視野に入れています。

時期	KPI	内容
令和7年3月 <実証期間終了>	登録学生数 300 人、 登録案件数 30 件	・宇部市内の学生や大学に登録の声かけ ・登録学生に掲載案件の紹介 ・自治体や大学との連携推進
4月～10月 <正式リリース>	総登録学生 500 人、 登録案件数 100 件	・4月1日にアプリリリース ・山口市の高等教育機関へ展開 ・ユーザーUI/UXの改良
令和8年3月	総登録学生 1000 人、 登録案件数 200 件	・周南、下関地域に展開、登録学生の集客 ・周南、下関地域の自治体や大学、民間企業へ営業 ・事業スキームの確立
令和9年3月	山口県外に展開 広島・岡山・香川・福岡へ	・山口県外の起業部学生に対して事業スキームの提供 ・山口県内の自治体がガクチアの正式な利用を開始